小樽税務署長賞

小樽市立北陵中学校　1年
神田　琴音

身近な街の施設と税金の支え

普段、私たちが何気なく利用している公園や図書館、きれいな道路などの街の施設。小さいころから当たり前のようにあったので、私はこれまで、それらがどのように作られ、どのように維持されているのか、深く考えたことがありませんでした。ですが中学校に入学し公民の授業や社会の仕組みについてふれる機会が増えたことでこれらの施設が税金によって支えられているのだと、改めて気づかされました。

私がよく利用するのは、家の近くにある公園です。休日に友達と集まって、おしゃべりしたり、体を動かしたりするお気にいりの場所です。敷地内にはいつもきれいな花が咲いていて、遊具も安全に点検されています。またテストの前や休日に利用する地域の図書館もちょうどいい室温がたもたれていて、たくさんの本が誰でも自由に読めるようになってます。

以前の私は、税金と聞くと買い物するときに余分なお金を払わされるものというどこかマイナスなイメージばかり持ってました。けれど、税金について調べていくうちに、私の考えは大きく変わりました。私たちが使っている公園のお手入れや図書館の新しい本、夜の道を明るくする街灯、さらにはゴミの回収まで、すべてみんなが払った税金で用意されていることを知りました。もし税金がなかったら公園の遊具が壊れても直せなかったり、図書館に入るのにお金を払わなければならなくなったりするかもしれません。私たちが毎日安心して快適に過ごしているのは、税金というみんなで助け合う仕組みがあるおかげだったのです。

自分が払っている買い物での税金も、大人の人たちが納めてくれている税金も、形を変え、私たちの暮らしやすさとして戻ってきています。街の施設はただの「タダで使える場所」ではなく「みんなの税金で作られた、みんなの大切なもの」だと分かりました。

税金の仕組みや大切さを知ったことで、私は街の施設に対する気持ちが変わりました。

公園をごみで汚さずキレイに使ったり、図書館の本を大切に使ったりすることも、税金を大切にすることにつながると思います。これから大人になって税金を払う立場になったときも自分のおさめたお金が誰かの笑顔につながっていることを忘れたくありません。そして、今ある街の施設に感謝しながら、これからも大切につかっていきたいです。